

# カシセシ



**R18**  
ADULT ONLY  
成人向け

Missy

# 「カレセン」

本書をお手に取っていただき、ありがとうございます。

## 作品コンセプト

タイトルにもなっている

『カレセン』枯れ専の男性と若い女性の関係を描く。

ノスタルジック、背徳感をテーマに、オムニバスに描いていくショートストーリー。

寝る前やふとした時に楽しめるものを作りたいと、思っております。

今作の主人公は

林 徳香 (はやし のりか) の  
ショートストーリーです。

コソコソ丸

## 目次

P03~08	プロローグ	林 徳香	11歳・夏
		林 徳香	18歳・夏
P09	林 徳香 (18) 設定		
P10	陶山 陸夫 (73) 林 徳香 (11) 設定		
	背景・廃シャワー小屋		
P11	林 徳香の友人	水野 南夏 (18)	
P12	林 徳香の友人	後藤 暁美 (18)	
P13	林 徳香 (18) のエピソード	満員電車で痴漢	
P14	林 徳香 (18) のエピソード	官能小説のエッチなネタ集め	

プロローグ「トラウマ」 林 徳香（はやし のりか） 十一歳の夏

初めて独りで、母方の田舎に帰った夏休み。夕食の準備をする祖父と祖母。暇を持て余していた徳香は、祖父の書斎に忍び込んでいた。電気が点いていない暗い書斎。月明りに照らされているのは、床に置かれた「お爺ちゃんが恋しい女子高生・下巻」とタイトルのある官能小説。「ふ……は……はあ……」暗い部屋に薄く響くのは徳香の吐息。……身を起す徳香。その顔は真っ赤に高揚し、吐息交じりに震える手でページをめくる。コソコソと書斎に忍び込んでいることを忘れ、小声で音読する。「少女のほかに膨らんだ双丘は、枯れた男の舌でナメ回される。徳香は、本能のままに付け始めたばかりのブラジャー越しに乳首を弄る。あつくふうう……はあ……なに？この感覚……」思わず声が出て反応する体……胸を弄る手が止まらぬ……「私もこんなこと……お爺ちゃん、男の人とするのかな……」官能小説に没頭する徳香。息が漏れつつ手が股の間に伸びる……「のりかちゃん明日海行く準備すませたかい？」と書斎の外から徳香を呼ぶ祖母の声。徳香「っ！！？？」

Cut	Picture	Action	Dialog	Sec
○		徳香の田舎外観 夜	SE 夏の夜	
○		月明りに照らされる官能小説	徳香OFF 「ふ……はあ……」	
○		徳香高揚し小説に没頭する	徳香 「私もこんな事……お爺ちゃん、男の人とするのかな……」	
○		右手が股の間へ導かれる	祖母OFF 「徳香ちゃん明日海行く準備済ませたかい？」	
○		祖母の声に驚きふり返るBLバックに	徳香 「っ！！？？」	

そう……私は……あの本に出会って、将来官能小説家になろうと思った……  
現代 林 徳香 十八歳・夏

ノートパソコンのアカリのみ暗い部屋で、画面を見つめる徳香。画面にはテキストソフトに小説が書かれており、題名が「診察室の少女」そして、マウスでカーソルを「小説ネタ集め」フォルダに合わせてクリックする。いくつかの動画の一つを再生……音が静かな部屋に漏れ始めた……映し出されたのは人気の無い診察室で白髪の医師に後背位で突かされている姿を自撮りしている徳香だった。



「徳香ちゃん、診察を撮影したいって大胆だね」と医師は腰を打ち付けながらニヤつく。「先生の検査棒が忘れられなくて、動画で残しておけば、いつでも見られるから」そんなこの診察が気に入ったのなら、毎日触診しますよ？」「医師の野太い診察棒が、徳香の秘部を押し広げ前後にこすりつける。そんな……毎日こんな事……」「徳香ちゃんの体は毎日触診して欲しがってますよ？」「だって先生のが奥に当たって、バチバチ頭の中が、光るのお……」常に奥を調べてるからね、今日もお薬は中で飲まれますか？」「な、中で？また飲んじやったら、いつか……赤ちゃんができちゃう」「私は構いません。今はフリーですから、徳香ちゃんも私の子も面倒見ますとも。やだ！なんて下りちやうのうのタメダメ？」「そんなこと言っても、もう遅いですよ。お薬の注入いたしますよ。くっ！」「あ、ああ！奥に！あたって、ダメっ……イクラー！」ドクドクと脈打ちながら、医師の診察棒から放たれる白濁の薬。くっはああ……いつもながらいい吸い込みです。今日の授業も完了です。ちゃんと妊娠するまで続けますからね徳香ちゃん」「ああ……はあ……だめ、そんな……赤ちゃん出来るまでなんて……」とスマホの撮影が途切れ動画が終わる。

（現実には小説より奇なり……小説のネタ集めに実体験を集めて……）画像をマウスで送る指が止まる。映っていたのはポロポロのシャワー小屋。「そう……あの夏休みの日……私のカレセンは、ここから始まったのよね」





蝉の声、遠くからは浜辺で遊ぶ子供の声、シャワー小屋には陸夫の感嘆の声が響く。

「おおっ！ほおおっ！こりや凄い・・・」

徳香のビキニが背後からスリ上げられ、少し傾いた日差しに露わとなった若いツツと上を向いた双丘が照らされる。

「誰か来ちゃう」（やっぱり大きい、あの時見たのが腰にあたってる・・・）

「こんな汚い所、誰も来んよ」

陸夫は徐々に硬くなっていく肉棒を押し付けながら、徳香の胸を堪能する。

「お嬢ちゃんのこ、吸われたがっているようだぞ」

背後から胸を触り、無骨な指が乳首を弄ぶ。

「そんな・吸われたらいい・ああ、やだ・あん・・・」

と体を回転させられた徳香の胸先に吸い付く陸夫。

「ええ！？あつ・やん・・・」（この感覚！？）

徳香の記憶がフラッシュバックのように蘇る・・・

それは高揚した十一歳の徳香だ。

「お爺ちゃん・なんか変な感じ・・・」

「気持ちいいだろう・・・？」

脳裏に同じ声が響く・・・。

あの時と同じ夢中に吸い付く陸夫の声だ・・・。

「はあ・んふっ・・・」（この懐かしい感じ・・・）

と意識が上の空の徳香。ビキニの紐が解かれる。

「っ？え・・・？」

バラリとズレ落ちるビキニ。

「たまらんなあ！お嬢ちゃんの体・・・もって味わわせてもらおうよ」



Cut	Picture	Action	Dialog	Sec
①		鳴りやまない徳香のスマホ画面に着信の相手の名前「お試し彼氏」の表示	SE 「スマホ着信音」  徳香OFF 「何よ」	
②		陸夫に秘部を舐められつつ彼氏の対応をする徳香	お試し彼氏 「どこにいるんだよ」 徳香 「聞いてなかったの？田舎に帰って言ったでしょ？」	
③		表情は迷惑と快感が入り混じる	お試し彼氏 「なあ～イキなり別れるとか言うなよなあ。会って話したいんだよ」	
④		秘部を舐める陸夫の舌音がシャワー室に響いている	徳香M 「嘘付けやりたいただけだろう？」 陸夫 「べちゃっびちゅっずっずずずず・・・」 徳香 「あぶっ♡」	
⑤		PANUP 陸夫の刺激にこのまま会話が出来ないと思った徳香一方的に通話を切る	お試し彼氏 「今何やってんだよ？」 徳香 「ん・・・今取り込み中なのよ帰ったら連絡するからかけてこないで」	
⑥		陸夫の舌先が徳香の秘部を丁寧に舐め上げている	陸夫 「彼氏かい？」	

シャワー小屋の台に座らされた徳香。

秘部に陸夫の舌が蛭のように吸い付いている・・・

その行為が艶めかしく吐息をたてる徳香・・・握りしめているスマホに力が入る・・・そのスマホは先ほどから幾度と着信音が鳴っていた・・・

これ以上は行為に集中できないと嫌々スマホを見る。画面には

「お試し彼氏」と表示されている。

「何よ」

「どこにんだよ？」

「聞いてなかったの？田舎に帰って言ったでしょ？」

答える徳香の声は艶めかしく・・・それに気づかない彼氏。

『なあ～イキなり別れるとか言うなよなあ。会って話したいんだよ』

（嘘つけ、やりたいただけだろう？）

通話中の徳香を見て陸夫の目がニヤつき、刺激を強くする。

『いつ帰ってくるんだよ』

『あつ・♡い、いつ帰るなんて、こっちの勝手でしょ？』

『今何してんだよ？』

『ん・・・はあ・取り込み中なのよ。帰ったら連絡するから・・・かけてこないで』

一方的に会話を終わらせる徳香に秘部を舐めながら陸夫が問いかける。

「彼氏かい？」

「一度やらせてあげただけ。同級生でその後しつこいのよ」

立ち上がる陸夫のズボンがそそり立っている。

「じゃあ、彼氏より気持ちよくしてやるよ」

Picture	Action	Dialog	Sec
	白コマより △ W-IN 陸夫に頭を驚個みにされている11歳の徳香	陸夫「ほら、嗅いでごらん」 徳香「う……」	
	回想戻り デイブスロー の徳香	徳香「んふ……はも……くちゅ……」 陸夫「上手いな嬢ちゃん そりや彼氏も 欲しがるわな」	
	△ 11歳の徳香に カ〇ピスが かかる	徳香「きゃっ」	
	回想戻り 白濁液を舐めとる 徳香	徳香「はああ……」 徳香M (変わらない…… 懐かしい味……)	

徳香の眼前に露わになる陸夫の年を感じさせない巨大な肉棒。  
 (……やっぱり大きい……それにこの匂い……あの時と同じ……)  
 その香りが徳香の記憶を呼び覚ます……

「ほーら嗅いでごらん……」  
 「う……」  
 「臭いかい？大人への階段の一步だよ。お嬢ちゃんが大人になりたいと思うほど不思議にこの匂いが癖になっっていくよ」  
 「すんすん……はあ……あああ……」  
 刺激臭に顔を歪めていた徳香の表情が高揚し始めた……  
 「さあ、慣れてきたらお口でソフトクリームのように舐めてみようね……」  
 陸夫の声を思い出しつつ徳香は陸夫の肉棒を頬張っている。  
 (鼻に抜けるこの匂い……口に残るカスも……)  
 「上手いじゃないか。そりや彼氏も欲しがるわな」  
 褒められてうれしかったのか、徳香の目が微笑み慣れた舌使いで裏側のカスを舐めとり、デイブスローへ・刺激に耐える陸夫。  
 「ぐっふううー良いぞー。このまま口に出してもいいだろう？」  
 返事の代わりに徳香の舌先が陸夫の射精を促し始める。  
 「ぐっふううっ……嬢ちゃんっ！」  
 徳香の頭を両手でつかんだ陸夫は腰を突き出す。  
 「出すぞっ！」  
 口の中に大量に広がる白濁の液体……更に広がる刺激臭に記憶がはじける。  
 (あの時の味……)  
 徳香は肉棒を加えたまま口をすぼめ、残りを全て吸い出していく。  
 「ずっ……ずちゆるうう……」  
 「お、お嬢ちゃん……全部吸われる……」  
 「ん……んく……んく……」  
 徳香の喉が鳴り、出された白濁液を舌で転がしながら、流し込んでいく。  
 (変わらない……懐かしい味……)

Picture	Action	Dialog	Sec
	壁に手を突いた徳香 を後背位で 腰を突き出す 陸夫	陸夫「おら、尻を突き出せ」 徳香「えっ！？ ちょっ……いきなり！」	
	△ 回想IN 祖母の声に驚く 陸夫と徳香	徳香の祖母OFF「徳香ちゃんどこにいるのー？」 陸夫&徳香「!？」	
	回想戻り ピストン運動を 続けるニヤケ面の 陸夫	陸夫「ワシのモノを 啜え込むとは…… ほれ、一気に 入れてやろう」	
	徳香の胎内 前後する肉棒が 子宮の入り口を叩く	徳香「あぁああ！」	
	そのたびに 体が跳ねる徳香	徳香「あいつより 大きい！」	

「くうーエロいねお嬢ちゃん！」発じやおさまらねーよ」  
 徳香を立ち上がらせ壁に手をつかせる。  
 「おら、尻を突き出せ！」  
 「えっ！？ちよっ……いきなり！」  
 一度果てた筈の肉棒は変わらずそり立ち、徳香の秘部にあてがわれる。  
 既に陸夫に仕上げられた徳香の秘部は、太い肉棒を受け入れる。  
 「うう！あはっ！(……！？痛くない……)」  
 徳香の記憶が交錯する。  
 「お爺ちゃん痛い……痛いよお……」  
 「じっとしていなさい。ちゃんと入るからね、心配いらなよ……」  
 痛がる徳香を呼ぶ声がある。  
 「徳香ちゃん、どこにいるのー？」  
 陸夫&徳香「!？」  
 (あの時はいらなかったのが……あの時味わえなかった感覚が……入ってくる)  
 「ワシのモノを啜え込むとは……ほれ、一気に入れてやろう」  
 接合部から徳香の潤滑油が散り深く押し込まれる。  
 「彼氏のより良いだろう？」  
 「あいつのより大きい……あつあああ！」  
 「へえー嬉しいねえー。もう奥に先が当たってるぞお」  
 「やっやだ……あ、あん、あはっ！」  
 徳香の顔が陸夫の突き上げに跳ねる。

黄金色の空がオレンジの空色に変わり、シャワー小屋を金色の光が包む中、行為に夢中な二人の交錯する音。吐息が続いてい

た……

「ダメッ♡、またイクっ！あつあつあああああ！」

「おいおい、何度イクんだ？相当溜まってたのかい？お嬢ちゃ

んのここが、絡みついて離さんぞ」

「はああ、うっつ、はああああ……」

「脱力しへたり込む徳香。」

「嬢ちゃん、一度綺麗にするんだ」

肉棒を引き抜くと、秘部から大量の白濁液が垂れる……

その流れるモノを切なく見つめる徳香の眼前に差し出される白

濁まみれの肉棒。徳香は抵抗なく頬張る。

「綺麗にしたら、今度は嬢ちゃんの上になるんだ。ちと疲れたわ

い、んちゅ、はああ、はああ……でも、ここは疲れ知らずみた

いですよ」

イキり立った肉棒を丁寧に舐め綺麗にしていく。

「嬢ちゃんまた満足したらんたろ？さあ、自分で入れてごらん」

陸夫はゴミ溜めの中からフルシートを取り出しその上に寝転

がる。

徳香はそそり立つ肉棒を持ち、自ら腰を下ろしていく。

「ああああ、いや……入ってくる……あああ」

秘部内の白濁液が強力な潤滑油となって、ヌルリと肉棒を飲み

込んでいく。

「くくく、嬢ちゃん好きモノだなあー腰がすでに動き出しとる

ぞ……」

「そんな……だって……良すぎる……あついや……」

もつと深くと腰を自らグライインドさせる徳香。

脳内で光る刺激に十一歳の記憶が襲い掛かる。

徳香の手を繋ぐ陸夫。

徳香の初めてのディープキスする陸夫。

徳香の膨らみ始めた乳房を舐める陸夫。

徳香のまだ男を知らない小さな割れ目を舐め回す陸夫。

徳香の秘部を貫こうとする陸夫。

快感で虚ろな徳香。子宮の奥の快感に浸る中、体を起こした陸

夫が乳房にむしゃぶりつく。

「あつあつあああ」

赤子のように懸命にむしゃぶりつく陸夫を愛おしく抱く徳香。

「嬢ちゃん今度はワシがイク番だ……また中に出すからな」

「ああ……うっつ」(これ以上中を出されたら……でも……

でも……)

陸夫の突き上げに、抱きつきながら徳香は頷く。

「くっおっ！で、でるうっ！」

徳香の秘部の奥に吐き出される感覚を抱きつきながら、余韻に

浸る。

徳香の目線の先にはレンズがこちらを向いたスマホ……

虚ろな瞳でそれを見る徳香。

それを自宅のノートパソコンのモニターで見ていた徳香と目が

合う。

「嬢ちゃんまだ出来るだろう？このままいくぞ」

「あう！ホントに出来ちゃう……」



動画を止める徳香

キーボードをカタカタと叩き始める

画面のテキストソフトの小説題名「診察室の少女」が消去されていき新しいタイトル「カレセン」へと変更されていく

先程まで筆が進まなかった徳香だったが、キーボードを叩く手が心地よいリズムを刻む。

ノートパソコン横にあるスマホが着信音と共に画面が点灯する

画面には「お試し彼氏」からのメール通知

『田舎から帰ってきてる？連絡くれよ』

無視する徳香。続けてもう一度着信音が鳴り表示されたのは

「エロ医者さん」からメール通知

『徳香ちゃんを診察したいなあー連絡しようだい』

キーボードを叩く手を止め、スマホを見る

「.....」

無言でスマホを手にし、通話する徳香

「あ、もしもし先生。診察って今から？うん・うん・うん、分かった行くわ。

えー!?制服は来ていなくていいの？衣装用意してる？」

わー何だろう楽しみ。じゃあ後で」

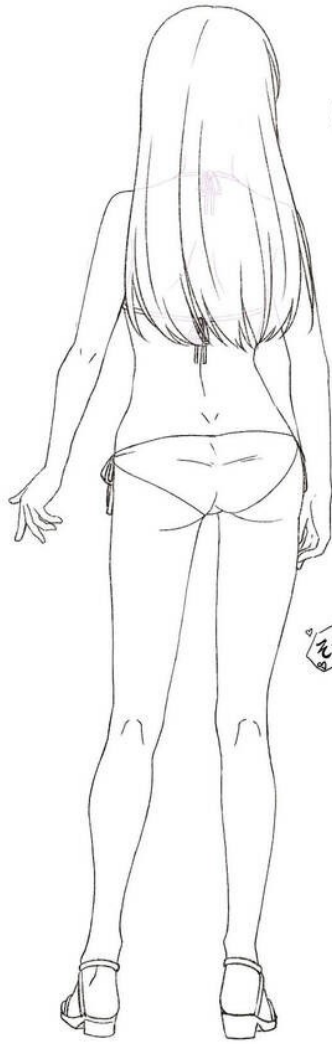
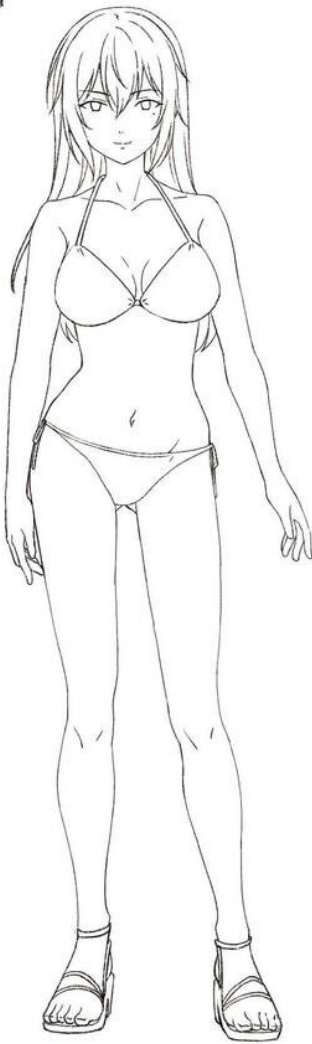
通話を切る

「さーて、ちゃんとお薬飲んで、ネタ集め」

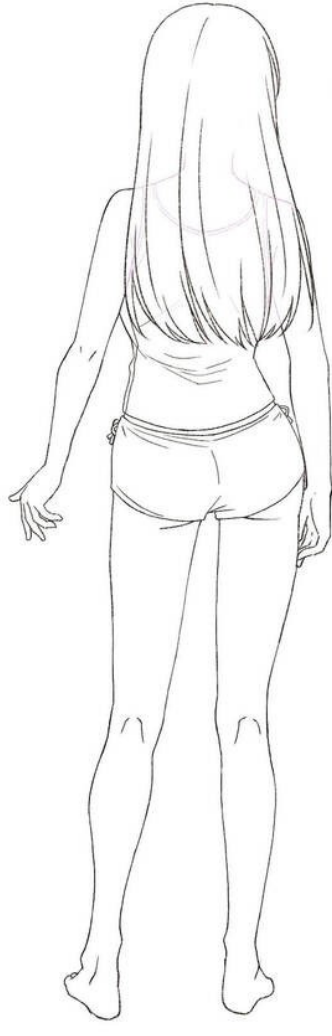
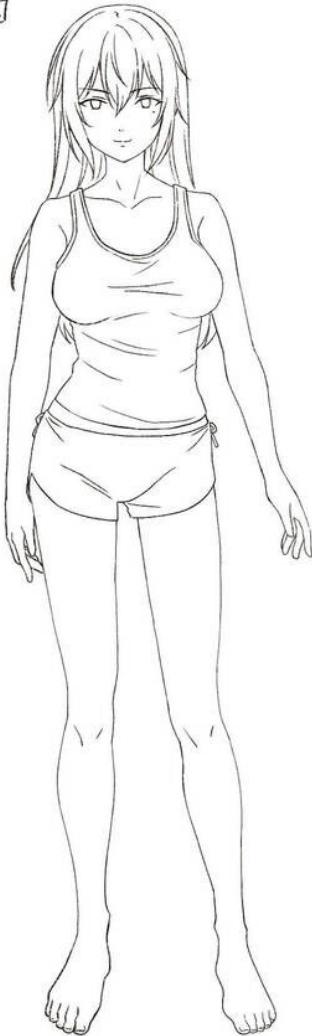
診察に向かった徳香は.....  
「徳香ちゃん、今日駐禁切られてねえー。  
その時の婦警さんがまた頑固でね。  
今日の診察は、婦警さんの格好でお仕置き中出し  
プレイだよ」

# 林 徳香 (18)

水着

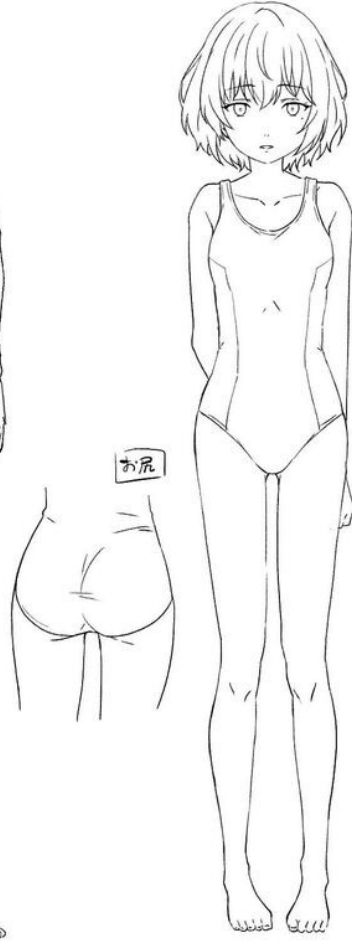
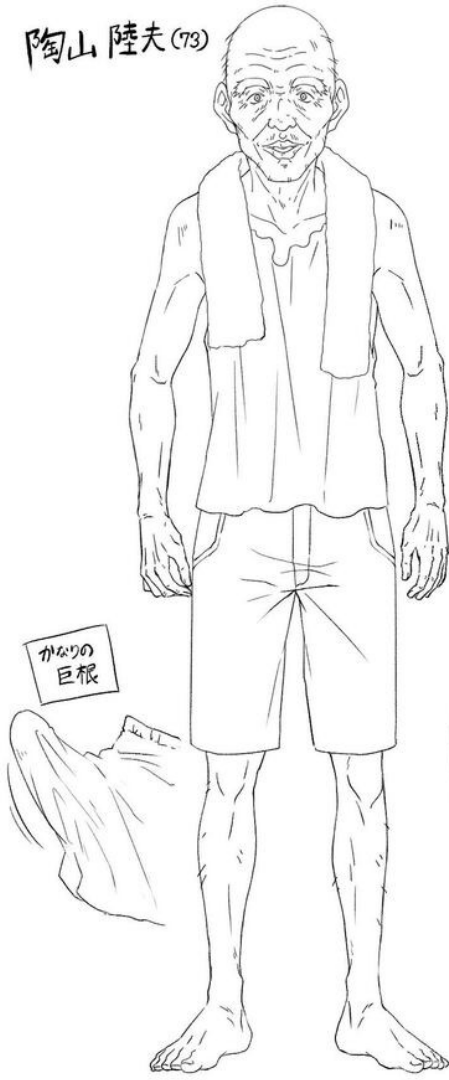


夏服



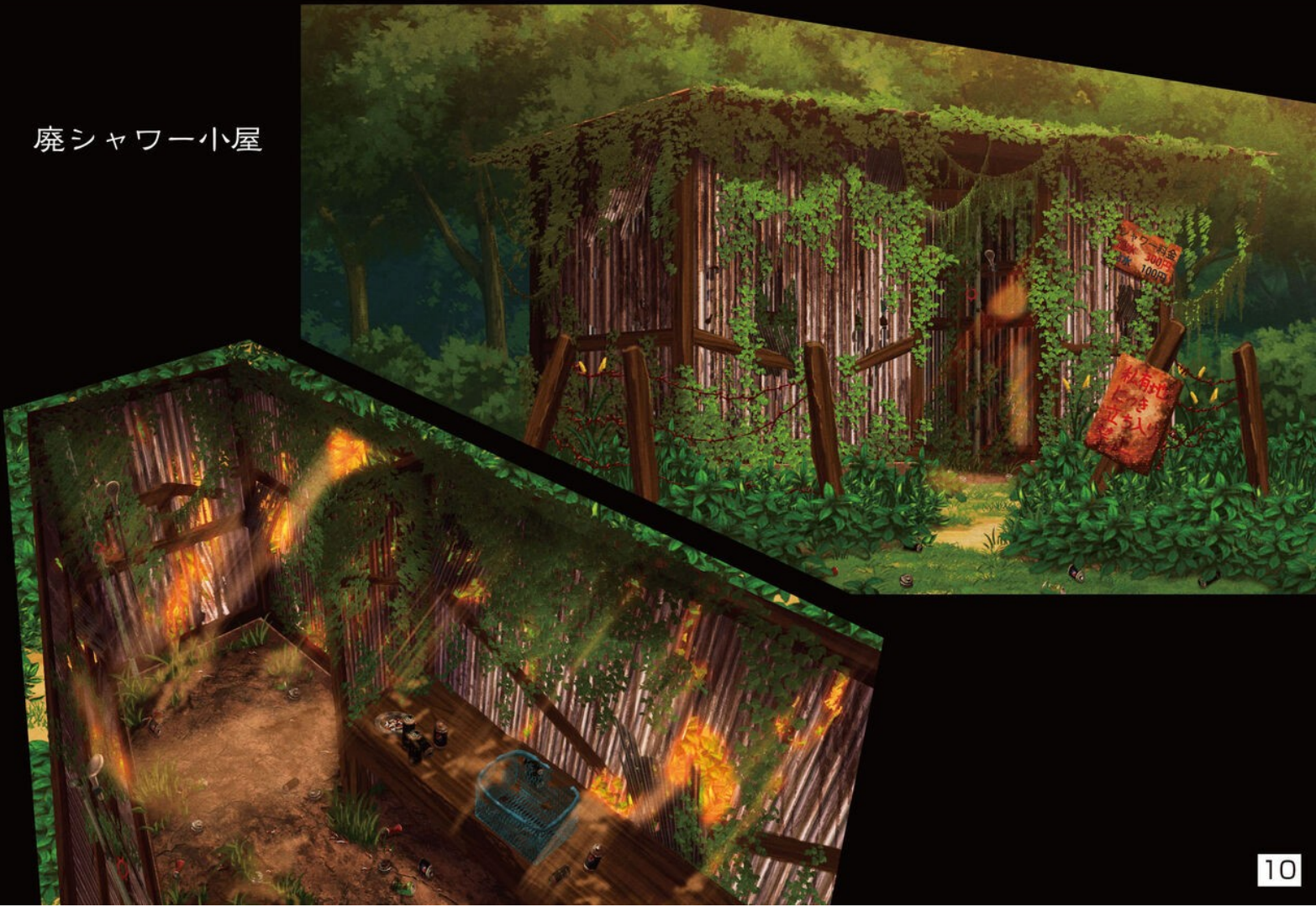
陶山 陸夫 (73)

林 徳香 (11)



LAZ

廃シャワー小屋






街の掲示板で見つけた介護バイト  
そこで知り合った松林源太さんに  
怪我のリハビリだと言われ、胸を揉まれました……

林 徳香の  
友人紹介

みずの ななつ

水野南夏

(18)



源太さんの怪我が落ち着いて  
バイト最後の日、最後のリハビリ  
にと、私もたくさんお世話になった  
お礼にと、一度だけ……  
でも……後日……  
またここに来る事になるなんて……

留学資金作りにおつパブのバイトを始めた暁美  
VIP客の小説家、織田川栄之助に札束チャレンジを  
けしかけられる。バイトを続けたく無かつた暁美は  
そのチャレンジを受けるが。。。

後藤暁美

(118)

ごとう あけみ

失敗に終わり。。。。その代償は。。。。

「お嬢ちゃんの初めてを  
貰うことになるなんてなあ」

「。。。。勝負は勝負だ。。。。」



エッチなネタを集める徳香にとって痴漢の手を振り払う理由はない……

「お嬢ちゃん大人しいねえ。いい心がけだよ」痴漢男は、行為を受け入れている餌食に容赦しない

はあ…  
あ…

ガタン  
ゴトン

ガタン  
ゴトン



官能小説家になる為...

私のエッチなネタ集めは終わらない.....

ん...ん...♡

アッ♡

ちゅ♡  
ちゅ♡

ちゅ♡

ちゅ♡  
ちゅ♡

♡♡♡

♡♡♡

♡♡♡



# 奥付

初めまして、コソコソ丸です。  
最後まで、読んで頂きありがとうございます。  
ご縁があり、  
コソコソ丸とLAZZさんとの共同ユニット、  
ユニぴくっ!として、活動を広げられたらと  
思います。  
今後ともご機会ありましたらよろしくお願  
いいたします

初めまして。LAZZと申します。  
この度カレセンシリーズにお声がけ頂き参加  
しました。  
とことんこだわり抜いて制作する作品との事  
で全力を尽くして良い作品にしていこうと思  
ってます。

カレセン

初版発行：2022/12/31  
印刷所：JC2<TAIYAKI>  
作者：コソコソ丸、LAZZ  
発行：ユニぴくっ!

